

チツソ、実力使い排除

本社座り込みの患者・支援会員

“これが正体……”とぼう然

第一次水俣病新認定患者・家族の川本輝夫さん（右）代表とチツソとの補償交渉は、九日未明中断のまゝ、自主交渉を求める川本さんら患者側のチツソ本社社長室前のすわり込みが続いていたが、チツソは二十四日午後、ついに川本さんらや同社内役員会議室や応援の水俣病を告発する会員など約三千人を実力で排除した。

同日午後二時すぎ、チツソの久我常務、土谷総務部長、河島人事部長が患者側のすわり込み現場にきて、患者側に「島田社長の健康が回復したい水俣に行つて話し合ふので、すみやかに退去してください」、支援側に「直ちに退去を要求する」という文書を提示した。

同三時二十分ごろ、患者側の健康を気づかつて来た付き添いの医師も「ようすを見たら帰る約束だったではないか」と、河島部長らに腕を取られて連れ出された。

川本さんは「これが暴力株式会社チツソだ。患者のいうことなど聞く耳持たぬということです」とぼう然としていた。

その後廊下では患者のどこへ行くとする告発する会員たちとチツソ社員の間でせり合いが続いたが、チツソ側は廊下に人がきをつくてこれを阻止。この目すわり込み参加のため上京した患者・家族二人も押し返された。

中村チツソ庶務部長は同五時二十分から記者会見し、実力排除の理由を「二十四日午後六時から会議室で映画『水俣』の上映が計画されていたことや、酒などを持ち込んで集会などが行なわれており、このような環境では解決の道につながらない」という判断から排除した」と説明した。

夜にはいつて久我常務と患者側の川本輝夫さん、佐藤武春さん（左）とそれに伴う石牟礼直子さんとの間で話し合いが続けられたが、久我常務は同九時五十分「もうこれ以上の話し合いはできない」と社員に患者側のかつぎ出しを命じた。このため社員が社長室前に入つて川本さん、佐藤さんをかつぎ出し、石牟礼さんも社員に腕をとられて連れ出された。川本さんは「これがチツソの暴力だ」と叫びながらかつぎ出されていった。同本社のある東京ビルを放り出された川本さんらはそのまま、同ビル玄阿前に泊まり込んだ。川本さんらの八日から十七日間にわたるチツソ本社内すわり込みはこれによりピリオドをうたれた。



チツソ社員にかつぎ出される川本さん（矢印）

患者側はこれを拒否したが、チツソ側は応接室や会議室に同趣旨のほり紙を掲示したあと、五井工場から動員した従業員やワイシャツ、ソーネクタイの本社員約百人が阿鼻に押しかけ、告発する会